



取材・記事掲載依頼

〈ふるさと納税制度活用の取り組み〉 台灣東部地震支援として集まった寄附で 花蓮縣特産品を用いた経済復興を支援



「4月3日花蓮震災笠間市花蓮県支援
ブースの様子」



「花蓮瑞穂郷文旦」QRコードを読み取ることで
本取り組みの内容が確認できる

笠間市では、台湾東部地震で大きな被害を受けた花蓮県の特産品である文旦（瑞穂郷文旦）の消費拡大を図り、花蓮県の経済振興につなげるため、本市ふるさと納税制度による寄附で、8月24(土)・25(日)に台湾の高雄市で開催された「日台高雄フルーツ祭」に支援ブースを設置し、PRしました。

特設ブースでは、台湾農業部農糧署（日本の農林水産省に相当）および花蓮瑞穂郷農會（日本の農協に相当）とともに、寄附金で購入した文旦4,260個を配布。また、文旦にはQRコードを貼り、花蓮県特産品の購入促進を図りました。

取り組みに対して、イベントの開幕式内で感謝ステージイベントが実施され、取り組みの目的と内容を説明。また、笠間台湾交流事務所長と花蓮瑞穂郷農會代表とのパネル交換を行うとともに、台湾農業部長（日本の農林水産大臣に相当）から感謝の意を込めたトロフィーが贈呈されました。

【イベント来場者からのコメント】

- ・「花蓮地震において、このように支援いただけることを大変嬉しく思う」
- ・「台湾で中秋節では日本でのお中元のように送りあう文化がある。無料で提供するだけではなく、花蓮県の文旦もそのように台湾消費者に購入されるキッカケとなる取り組みは素晴らしい。応援したい」
- ・「笠間市最高」

また、支援をきっかけに、花蓮瑞穂郷農會から「笠間市の小中学生の給食に文旦を無償で提供したい」との話もあり、今後台湾とのさらなる交流につながる結果となりました。

※詳細は別紙をご確認ください。

[この件に関するお問い合わせ] 笠間市役所 政策企画部 企業誘致・移住推進課 石川・山岸

電話番号: 0296-77-1101 (内線591) ファックス番号: 0296-77-1324 e-mail: furusato@city.kasama.lg.jp

※台湾交流事務所の業務に関しては、秘書課 須藤が担当です



左、笠間台湾交流事務所 木下知香 所長
右、花蓮縣瑞穗鄉農會 黃盛皇 総幹事



左、笠間台湾交流事務所 木下知香 所長
右、台灣農業部 陳駿季 部長



左、花蓮県支援ブース
右、笠間市ブース



左から順に、花蓮縣瑞穗鄉農會 黃盛皇 総幹事、農業部 陳駿季 部長、日本台灣交流協會台北事務所 片山和之 代表、高雄市 陳其邁 市長、笠間台灣交流事務所 木下知香 所長

○取り組みの詳細

【笠間台湾交流事務所における、ふるさと納税で集まった支援金活用の詳細】

令和6年4月3日に台湾東部地震が発生し、大きな被害があったことから、笠間台湾交流事務所での当該地震の復興・復旧を支援する事業に充てるため、ふるさと納税の制度を活用し、寄附を募りました(募集期間:R6.4.5～R6.5.6)。

支援金は日本全国から101人、1,416,000円(約28万台湾元)が集まりました。

台湾農業部農糧署と笠間市は2019年に「食を通じた文化交流と発展的な連携強化に関する覚書」を締結しました。覚書には「地域経済の振興等における相互協力を強化するよう努める」とあることから、台湾で被害が一番大きい花蓮県の特産品を農業部農糧署と協同でPRすることにより、花蓮県の経済振興を図りました。

【日台フルーツ祭(日台高雄フルーツ祭(台日大港水果祭))について】

日本台湾交流協会と台湾農業部が開催する台湾と日本の果物のお祭り。

2024年で3回目の開催、今年は台湾高雄市へ会場を移し高雄市政府との協同開催となりました。会場は高雄のランドマークである高雄流行音楽中心の海風広場。

2日間で約10万人が来場しました。(1日目約4.5万人、2日目約5.5万人)